

授業概要

科目名		言語聴覚障害概論				授業の種類	講義	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1	通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚障害の基礎知識を習得し、評価・診断および臨床の流れと基本的な手法について理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。												
【実務者経験】 言語聴覚士として半田中央病院に勤務し、成人分野の急性期から慢性期までのリハビリに従事する。												
【授業全体の内容の概要】 言語聴覚士の業務に関わる基礎的な知識を習得するとともに、基本理念や倫理観を学ぶ。 言語聴覚士の業務に関わる基礎的な知識を習得する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士業務について説明することができる。 国家試験に則した基礎的知識を身につけることができる。												
回数	講義内容									準備物(教材)		
1	オリエンテーション・言語聴覚士の役割について理解できる									教科書 配布資料		
2	言語聴覚士について、求められる資質・能力を理解できる									教科書 配布資料		
3	言語聴覚士法について理解できる									教科書 配布資料		
4	言語聴覚士法について理解できる									教科書 配布資料		
5	言語聴覚療法の基本理念について理解できる									教科書 配布資料		
6	言語聴覚療法とその過程について理解できる(ICF、リハビリ実施計画書の書式を含む)									教科書 配布資料		
7	関連職種連携について理解できる									教科書 配布資料		
8	言語聴覚士と倫理について理解できる(倫理綱領・医療倫理・研究倫理含む)口									教科書 配布資料		
9	リスクマネジメントについて理解できる									教科書 配布資料		
10	言語聴覚士に関連する専門用語について理解し、読み書きができる									教科書 配布資料		
11	言語聴覚障害の種類について理解できる(主に失語症、高次脳機能障害)									教科書 配布資料		
12	言語聴覚障害の種類について理解できる(主に運動障害性構音障害、嚥下障害)									教科書 配布資料		
13	言語聴覚障害の種類について理解できる(主に聴覚障害)									教科書 配布資料		
14	言語聴覚療法の歴史について理解できる									教科書 配布資料		
15	総復習									教科書		
	定期筆記試験									今までの配布資料		
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害概論 第2版』医学書院 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版												
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習を行ってください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												